

予報第 6 号(10 月)

農推第 2123 号
平成 23 年 9 月 29 日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政
室長

病虫害発生予察情報について

標記について,次のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予報第 6 号(10 月)

農作物名	病虫害名	予想発生量
みかん	黒点病	○
	そうか病	□～○
	ミカンハダニ	□
	ミカンサビダニ	△
果樹全般	果樹カメムシ類	▲
なす	うどんこ病	□
	ハモグリバエ類	△
きゅうり	うどんこ病	△
	炭そ病	□
	べと病	□

	ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	△
	ハモグリバエ類	□
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)	□
	コナジラミ類	△
キャベツ等あぶらな科野菜	コナガ	△
	ハイマダラノメイガ	□
野菜 花き類 大豆	アブラムシ類	△
野菜類 花き類	ミカンキイロアザミウマ	□
	ミナミキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	□
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	□
	ハダニ類	□～△
	コナジラミ類	△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

9月気象予報(大阪管区气象台8月26日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	40	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

A 果樹

1 みかん

【黒点病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1) 9月の巡回調査では、発生はやや多かった。

(2) 10月の気象は降水量は平年よりやや多いと予報されている。

[メモ]

(1)この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。

(2)10月の気象は降水量は平年よりやや多いと予報されている。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一薬剤や同一系統の薬剤を連用すると、抵抗性が発達する恐れがある。

(2)合成ピレスロイド系の殺虫剤(アディオン等)は、天敵を減らすため、多用すると

ハダニ類増加を招く恐れがある。

【ミカンサビダニ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)微小な害虫であるため、被害が発生するまで気がつきにくい。

(2)薬剤のかかりにくい密植園、樹高が高い樹の上部、樹の内側で発生しやすい。

(3)発生が多かった場所を記録しておき、剪定時に改善を図る。

2 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量:少ない

[予報の根拠]

(1)9月のフェロモントラップによる誘殺虫数は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 果樹を加害する主要なカメムシ類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、

クサギカメムシの3種である。

(2) なし、かきなどの果樹類を加害する。

(3) 多発生した場合は、みかんを加害することもある。

[メモ]

(1) 8月頃から新成虫が羽化し、果樹園に飛来が見られる。

(2) 園地によって発生量に大きな差がある。

B 野菜類

1 なす

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2) 発生初期の防除を徹底する。

(3) 草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1) うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1) 9月の巡回調査では、発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) ハウスの開口部を寒冷紗(1mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

2 きゅうり

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1) 9月の巡回調査では、発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。
- (2)発生初期の防除を徹底する。
- (3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

〔メモ〕

- (1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。
- (2)ストロビルリン系剤(アミスター、ストロビー)の連用は避ける。
- (3)ストロビルリン系剤の使用時には、薬害の恐れがあるため、浸透性展着剤は加用しない。
- (4)ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。

【炭そ病】

〔予報内容〕 発生量:並

〔予報の根拠〕

- (1)9月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

〔防除上考慮すべき事項〕

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。

【べと病】

〔予報内容〕 発生量:並

〔予報の根拠〕

- (1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

〔防除上考慮すべき事項〕

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

【ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)】

〔予報内容〕 発生量:やや少ない

〔予報の根拠〕

- (1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

〔防除上考慮すべき事項〕

- (1)ハウスの開口部を寒冷紗(2mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (2)食害株の幼虫を捕殺する。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗(1mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

3 トマト

【トマト黄化葉巻病(TYLCV)】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査で発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)感染後の治療薬はないので感染株はすぐに処分する。

(2)タバココナジラミがウイルスを媒介するので、コナジラミ類の防除に努める。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ほ場周辺の除草にも努める。

[メモ]

(1)タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。

4 キャベツ等あぶらな科野菜

【コナガ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

【ハイマダラノメイガ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の予察灯への誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、発生初期に防除を徹底する。

(2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

[メモ]

[防除上考慮すべき事項]

(1)苗床は寒冷紗等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(2)食害の見られた株は、速やかに処分する。

C 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査で、発生は平年よりやや少なかった。

(2)9月の黄色水盤による誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

D 野菜・花き

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の露地なす巡回調査の見取り調査や花たたき法による調査では、発生は平年並であった。

(2)9月前半の青色粘着トラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への伝染源となるので、速やかに処分する。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病(TSWV)を媒介する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査で発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止できる。

(3)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる

【ハスモンヨトウ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場

から持ち出して処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止でき

る。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハダニ類】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査での発生は、並～やや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避ける。

[メモ]

(1)高温、乾燥条件で多発する。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ほ場周辺の除草にも努める。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています(毎月アップデート)

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病虫害情報を電子メールで送付します

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/>

(社団法人大阪府植物防疫協会)

